

広島県公立高校入試徹底分析【社会】

【形式・難易度】

試験時間	50分	配点	50点
問題構成	大問は4題。地理・歴史・公民・融合問題が出題される。 地理は、計22点分出題。 歴史は、計15点分出題。 公民は、計13点分出題。		

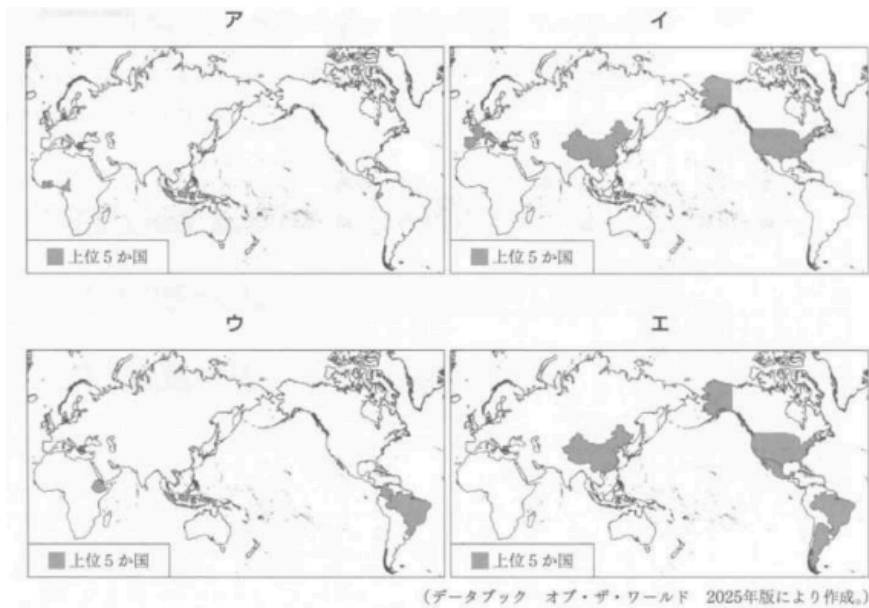
	令和8年度(2026)	令和7年度(2025)	令和6年度(2024)	令和5年度(2023)	令和4年度(2022)
問題量（A4で）	14ページ分	12ページ分	12ページ分	12ページ分	14ページ分
小問数	23問	23問	22問	21問	24問
論述問題の数	7問	6問	6問	6問	10問
論述問題配点	16点	17点	18点	20点	25点
受験者平均点	21.8点	24.4点	26.9点	25.8点	23.3点

【出題の傾向と対策】

① 記号選択は、資料などから情報を読み取る練習が必要。

大問4 3(1)

次のア～エ、カカオ豆、牛肉、コーヒー豆、ブドウそれぞれについての生産量上位5か国(2022年)を示した地図のいずれかに当たります。ア～エの中で、山下さんのまとめの中の地図Xに当てはまる、カカオ豆の生産量上位5か国を示した地図はどれですか。その記号を書きなさい。



～地図上に示された国がどの国に当てはまるかを確認する～

ア:カカオ豆 【理由】ガーナ、コートジボワールなどアフリカ大陸西部の国が上位を占める。

イ:ブドウ 【理由】中国、アメリカのほか、イタリアやフランスなどはワインに加工される。

ウ:コーヒー豆【理由】ブラジル、インドネシア、ベトナムなど赤道付近の国が上位を占める。

エ:牛肉 【理由】中国、アメリカ、ブラジル、アルゼンチンなどが挙げられる。

② 資料から読み取れることを関連付けて説明する練習が必要。

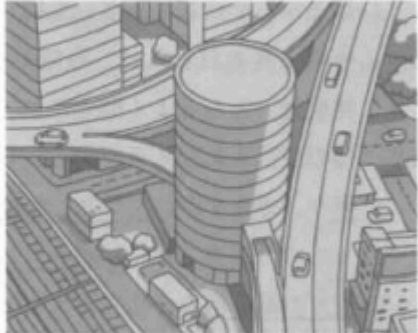
大問3 6

次の資料Ⅱは、D市における道路建設についての経緯を示しています。資料Ⅱの事例についてまとめた下の文章中の【 a 】・【 b 】には、どのような内容が当てはまりますか。それぞれ簡潔に書きなさい。

資料Ⅱ

D市では、市の中心部にあるD駅周辺の交通渋滞を減らすため、D駅周辺に、都市高速道路の出口を設置する都市計画を策定した。都市計画に基づき、都市高速道路を運営するX社が新たに設置する出口付近の土地を買取しようとしたが、そこでは民間企業のY社が長年、事業を営んでいた。X社は土地所有者のY社に買取に対して理解を求めたが、その土地は非常に利便性の高い場所であったため適当な代替地がなく、移転するとY社の事業に大きな支障があり、交渉は難航した。

ちょうどその頃、道路に関する法律が改正され、道路の上空に建物を建設することを可能とする制度がつくられた。X社はこの制度を利用し、Y社と合意に至ることができた。Y社は他の土地に移転することなく、右の図のような都市高速道路が貫通したビルを新たに建設し、事業を続けることができた。



「効率」が「より少ない資源を使って社会全体でより大きな成果を得る」という考え方であるとするとき、資料Ⅱの事例では、 ことが「効率」に当たる。また、「公正」が「不当に不利益を被っている人をなくす」という考え方であるとするとき、資料Ⅱの事例では、合意の内容を踏まえると、 のないようすることが「公正」に当たる。

～「効率」や「公正」についての考え方を資料Ⅱの事例に当てはめて説明する～

- 【a】:非常に利便性の高い場所に都市高速道路が貫通したビルを建設することで、D駅周辺の交通渋滞を減らすことができることが、「効率」にあたる。
- 【b】:非常に利便性の高い場所である土地は適当な代替地がなく、移転せざるを得なくなると、Y社に大きな支障が生じてしまうことが、「公正」にあたる。

解答

大問4 3(1) ア

大問3 6

- 【a】例 利便性の高い場所に都市高速道路が貫通したビルを建設し、D駅周辺の交通渋滞を減らす
- 【b】例 適当な代替地がないにもかかわらず、Y社が移転せざるを得なくなり、その結果Y社に大きな支障が生じてしまうこと